



River Work Office Teshio River Project

天塩川(名寄市風連町瑞生)

# 管内事業概要



## ◎士別市

[人口]22,520人  
[面積]1,119.29km<sup>2</sup>

**地名の由来** アイヌ語「シベツ」(大きい・川[本流])に由来していると言われています。

士別市は、顔と手足が黒いサフォーク種めん羊が、まちの顔となっています。レストランや世界のめん羊館が整備された羊と雲の丘や天塩川の源である天塩岳、美しい景色が周辺に広がる岩尾内湖などが観光スポットになっています。また、スポーツ施設も充実しており、陸上競技やスキー競技を中心としたスポーツ合宿の里として全国的に知られています。



## ◎剣淵町

[人口]3,691人  
[面積]131.20km<sup>2</sup>

**地名の由来** アイヌ語「ケネペツ」(ハンノキの多い川)に由来していると言われています。

剣淵町は道北屈指の優良農産物の生産地です。また「扉の向こうに物語がある…誇れる大地。夢ひらくまちけんぶち」をまちづくりのテーマに、絵本を通じてゆとりと、優しさあふれる「絵本の里」づくりを展開しています。



## ◎美深町

[人口]5,137人  
[面積]672.14km<sup>2</sup>

**地名の由来** アイヌ語「ピウカ」(石多き河床)に由来していると言われています。

美深町は函岳を主峰とする北見山地と天塩山地に囲まれ、その中央を南から北へ天塩川が流れています。びふかアーランドではキャンプ施設や温泉、道の駅などが整備され、チョウザメを養殖している「美深ショウザメ館」もあります。また天塩川をステージにカヌー下りなどのイベントが行われにぎわいます。



## ◎名寄市

[人口]30,896人  
[面積]535.23km<sup>2</sup>

**地名の由来** アイヌ語「ナイ・オロ・プト」(川の・処の・口(名寄川が天塩川に注ぐところ))に由来していると言われています。

名寄市は、天塩川と名寄川によって形成された肥沃な大地において様々な農産物が生産・出荷され、農業を基幹産業として発展してきたまちです。特に、もち米とアスピラガスの生産量は全国有数で、名寄市を代表する特産物となっています。



## ◎和寒町

[人口]3,994人  
[面積]224.83km<sup>2</sup>

**地名の由来** アイヌ語「ワット・サム」(ニレの木のそば)に由来していると言われています。

和寒町は、基幹産業である稲作を始め、畑作や畜産等の複合経営を行っています。また「スポーツのまち」として、玉入れやモトクロス等のスポーツ活動を通した観光開発も進めています。町の南には作家・三浦綾子の小説でも有名な塩狩峠があります。



## ◎下川町

[人口]3,755人  
[面積]644.20km<sup>2</sup>

**地名の由来** アイヌ語「パンケ・ヌカナン」(下・川の意)に由来していると言われています。

下川町は、町の面積が90%が森林で覆われています。こうした恵まれた自然環境を生かし、循環型森林経営の確立を図るとともに、環境に配慮した森林整備を進め、また、2008年7月には「環境モデル都市」に国から認定されました。万里長城、冬の風物詩アイスキヤンドルなど自然と調和の取れた豊かなまちづくりに取り組んでいます。



## ◎音威子府村

[人口]889人  
[面積]275.64km<sup>2</sup>

**地名の由来** アイヌ語の「オ・トイネ・ブ」(濁りたる泥川、漂木の堆積する川口、または切れ曲がる川尻)に由来していると言われています。

音威子府村は、「森と匠の村」をテーマに、近代彫刻界を代表する「高橋昭五郎彫刻館」そして砂澤ビッキ終焉の地として、BIKKYアトリエ3モアを復元し、村所蔵の作品を展示した交流体験施設「エコ・ミュージアムおさしまセンター」を中心に創造性豊かな地域づくりを目指しています。また幕末の探検家・松浦武四郎が天塩川を辿った折に、「北海道」との名前を発想した地といわれています。



## ◎中川町

[人口]1,887人  
[面積]594.87km<sup>2</sup>

**地名の由来** 蝦夷地が北海道になった際の郡名、中川(天塩川中流域を意味する)郡に由来していると言われています。

中川町は中生代白亜紀の地層が広く分布し、化石の宝庫として脚光を浴びています。これらの自然遺産を守り育てながら、次世代への継承と地域の発展に結びつける中川町エコミュージアム構想を掲げています。また歌人斎藤茂吉のゆかりの地としても全國的に知られています。



# 流域に生まれ息づく あらゆるものを支え育む流れ、 天塩川。

時を刻むように、歴史を積み重ねるように

美しき道北の大地を縋り、

明日を拓くかのように、未来の水平線へと続くかのように

雄大な日本海に注ぐ母なる流れ、天塩川。

源流の峻烈な流れの中には無数の魚影が映り

とうとう流れゆく水面には水鳥やカヌーイストの姿が揺れる。

流域には豊穣な実りを支える沃野や、無数の生命を宿す森が広がる。

道がある。農村がある。街がある。

人々の暮らしがあり、明日へとつながる夢がある。

目に見えるもの、見えないもの、

形のあるもの、人の心の中だけにあるもの。

天塩川は、この道北の地に生まれ、息づくあらゆるもの

やさしく守り育むために、

そして豊かな未来へと導くために

今日もたおやかに、たくましく流れゆく。



天塩川とその支川	03
洪水・災害・治水の歴史	05
河川改修事業	06
河川維持管理	08
水防	09
河川情報網整備事業	10
河川環境の整備・保全	11
都市水環境整備事業	12
天塩川の水利用	13
岩尾内ダムの姿	14
天塩川上流域の生き物	15
地域と一体となった河川管理	16
天塩川と松浦武四郎	17



# 天塩川とその支川

## 天塩川の姿

天塩川は北海道第2位の延長(256km)を誇る大河です。

天塩川は、北見山地の天塩岳に源を発し、士別市で剣淵川、名寄市で名寄川などの支川を合流し、山間の平地と狭く部を蛇行しながら流下して中川町に至ります。

さらに天塩平野に入って問寒別川などの支川を合流し天塩町において日本海に注ぎます。上流部は天塩岳道立自然公園、下流部は利尻礼文サロベツ国立公園に指定され、豊かな自然と、動植物がみられる河川です。



### 天塩川上流部～天塩岳から名寄市に至る間～

天塩岳を源にし、豊かな森林に恵まれた山間部から岩尾内ダムを経て、士別市及び名寄市へと流れおり河川勾配は急です。

岩尾内ダムより上流部では林業、名寄盆地を中心とした平地部では稲作、畑作が行われています。



天塩川上流部

### 天塩川中流部～名寄市から中川町に至る間～

名寄市から中川町に至る中流部のうち音威子府狭窄部よりも上流は河川勾配が比較的急であり、山間の平野を蛇行しながら流れています。また、天塩川の名前の由来となった露岩地形である「テッシ」が特に名寄市から美深町までに多く存在しています。中流域の美深町は稲作北限地帯となっており、それより下流では酪農や畑作が営まれています。また中流部の河川周辺には治水事業として実施した捷水路工事による多くの旧川(三日月湖)が残されています。



天塩川中流部《テッシ》

### 天塩川下流部～中川町から河口に至る間～

中川町より下流部は大きく蛇行しながら緩勾配で流下し日本海へと流れています。

泥炭地が分布する天塩平野、サロベツ原野などでは広大な平地を利用した畑作と酪農が営まれ、また汽水域である本川下流などではヤマトシジミ漁が行われています。



天塩川下流部《河口付近》

天塩川は北海道遺産に選定されています。

次の世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、北海道民全体の宝物として選ばれたのが「北海道遺産」です。天塩川は平成16年(2004年)10月、第二回分として選定されました。



Data of Teshio River

## 天塩川【てしおがわ】



天塩川と名寄川(名寄市)

流 路 延 長	256.0km(内天塩川上流 208.7km)
直 脇 管 理 区 間	227.1km(内天塩川上流 160.0km)
流 域 面 積	5,590.0km <sup>2</sup> (内天塩川上流 4,192.0km <sup>2</sup> )
流 域 内 市 町 村	3市8町1村(名寄河川事務所管内 2市5町1村)
流 域 内 人 口	122,806人(平成21年12月住民基本台帳)
川の名前由来	アイヌ語の「テッシ・オ・ペツ《築(やな)の多い川》」が語源で、岩が築のような形で川を横断している独特の露岩地形に由来しています。

## 剣淵川【けんぶちがわ】

Data of Kenbuchi River

源を塩狩峠から発するサクルクシュケネブチ川に発し周辺を山々に囲まれ沢山の川と合わせ、剣淵川となり、士別市で天塩川に合流しています。



剣淵川

流 路 延 長	42.5km	直 脇 管 理 区 間	1.6km
流 域 面 積	631.2km <sup>2</sup>		
川の名前由来	アイヌ語の「ケネブチ(ハンノキのその川口)」が語源といわれています。		

## 問寒別川【といかんべつがわ】

Data of Toikanbetsu River

源を天塩山脈の北端に発し、問寒別川原野の支流をあわせながら南流し、問寒別市街を経て天塩川に合流しています。



問寒別川

流 路 延 長	34.4km	直 脇 管 理 区 間	24.5km
流 域 面 積	276.0km <sup>2</sup>		
川の名前由来	アイヌ語の「トイ・カン・ペッ(土のかぶさる川)」が語源といわれ、川岸に土が多かったことに由来しています。		

## 名寄川【なよろがわ】

Data of Nayoro River

源を北見山地の柵瑠山に発しサンル川などの支川を合流しながら流下し、名寄市において天塩川に合流している急流河川です。



名寄川

流 路 延 長	63.5km	直 脇 管 理 区 間	34.1km
流 域 面 積	743.0km <sup>2</sup>		
川の名前由来	アイヌ語の「ナイ・オロ・プト(川のそばの国)」が語源といわれ、「沢の中」、「川の口」を意味しています。		

## 風連別川【ふうれんべつかわ】

Data of Hurenbetsu River

東に北見山地、西に天塩山地をのぞみ、名寄川と天塩川の間を縫うように流れ、名寄市風連町で天塩川に合流しています。



風連別川

流 路 延 長	30.5km	直 脇 管 理 区 間	3.4km
流 域 面 積	164.6km <sup>2</sup>		
川の名前由来	アイヌ語の「フーレ・ペツ(赤い川)」が語源といわれ、川底が赤く錆びたように見えたことに由来しています。		

## 雄信内川【おのぶないがわ】

Data of Onobunai River

源を天塩町の南、遠別町の町境付近に発し、北流しながら南雄信内川、二十三号川などの支川を合わせ、天塩川に架かる雄信内大橋の下流で天塩川に合流しています。



雄信内川

流 路 延 長	16.7km	直 脇 管 理 区 間	2.0km
流 域 面 積	113.3km <sup>2</sup>		
川の名前由来	アイヌ語の「オ・ヌブ・ナイ(川尻に原野のある川)」が語源といわれ、川下に原野が広がっていたことに由来しています。		

# 洪水・災害・治水の歴史

天塩川水系の治水事業は、第2期拓殖計画の一環として昭和9年(1934年)に智恵文、名寄付近のわん曲部の切替(捷水路工事)に始まります。昭和21年(1946年)7月および昭和28年(1953年)7月洪水により昭和29(1954年)年計画を改定し改修工事を進めてきました。

その後、昭和30年(1955年)7月洪水の被害にかんがみ、計画を再検討して、昭和38年(1963年)に計画を改定しました。更に河川法の改正により昭和41年(1966年)には、一級河川の指定を受け、それまでの計画を踏襲した工事実施基本計画を策定しました。この計画に基づき、洪水調節・かんがい用水・発電・水道用水・工業用水を目的とした多目的ダムの岩尾内ダムが昭和46年(1971年)に完成し、洪水被害の軽減と共に安定した営農に寄与する等、地域の発展に貢献しています。

昭和9年(1934年)に始まった捷水路工事は25箇所が完成しています。また河道掘削、浚渫、堤防の造成、護岸の設置等を実施し、これにより、洪水時の水位を下げる等、流域の治水安全度の向上や農業の発展などに寄与しました。

その後、昭和48年(1973年)8月、昭和50年(1975年)8月、昭和56年(1981年)8月と数度にわたり大洪水が発生したこと等から昭和62年(1987年)に天塩川工事実施基本計画を改定(平成6年(1994年)部分改訂)しました。

また平成9年(1997年)には河川法の改正に伴い、天塩川水系河川整備基本方針を平成15年(2003年)に策定し、この基本方針を受け北海道開発局では概ね30年間の整備に関する事項を取りまとめた天塩川水系河川整備計画を平成19年(2007年)策定しました。

北海道開発局資料等から作成			
洪水発生年月日	気象原因	代表地点雨量 (mm/3H)	被害の状況
昭和14年(1939年) 7月28日~30日		197(上音威子府)	死者/1名 家屋被害/180戸 浸水面積/3,918ha
昭和27年(1952年) 7月25日~26日	低気圧	92(円山)	家屋被害/1,114戸 浸水面積/400ha
昭和28年(1953年) 7月27日~8月2日	前線	101(河口) 95(名寄)	死者/8名 家屋被害/1,752戸 浸水面積/9,643ha
昭和30年(1955年) 7月3日~5日	低気圧	195(土別)	死者/8名 家屋被害/2,125戸 浸水面積/5,907ha
昭和30年(1955年) 8月17日~21日	前線	111(辰根牛) 149(名寄)	家屋被害/1,177戸 浸水面積/4,927ha
昭和45年(1970年) 10月24日~26日	低気圧	205(上間寒別)	家屋被害/193戸 浸水面積/2,511ha
昭和48年(1973年) 8月16日~18日	台風・前線	230(名寄)	家屋被害/1,255戸 浸水面積/12,775ha
昭和50年(1975年) 8月21日~24日	台風・前線	211(土別) 157(名寄)	家屋被害/2,642戸 浸水面積/11,640ha
昭和50年(1975年) 9月6日~8日	低気圧	109(円山)	家屋被害/117戸 浸水面積/4,253ha
昭和56年(1981年) 8月3日~7日	低気圧・ 前線・台風	283(土別) 226(名寄)	家屋被害/546戸 浸水面積/15,625ha
平成4年(1992年) 7月29日~8月4日	前線	124(名寄)	家屋被害/9戸 浸水面積/288ha
平成6年(1994年) 8月12日~15日	前線	130(土別)	家屋被害/138戸 浸水面積/854ha
平成13年(2001年) 9月8日~12日	前線・台風	183(土別) 181(名寄)	家屋被害/2戸 浸水面積/315ha



昭和48年 天塩川左岸の氾濫(音威子府村満内地先)



昭和50年 名寄市付近の浸水状況



昭和56年 土のうを積む人々(劍淵町)

key word  
●捷水路工事とは

かつて天塩川には急なわん曲部が数多くあったため流れが悪くなり、大雨の度に水があふれ、いく度となく洪水が繰り返されてきました。

捷水路工事とは、こうしたわん曲部を直線的に切り替えで近道を造り水が流れやすくなるものです。

## 捷水路工事事業箇所図



# 河川改修事業

RIVER WORK OFFICE Teshio River Project

管内の河川整備事業を通じて、安全でゆとりのある快適な地域社会の形成、食糧基地としての役割の強化を目指しています

## 一般河川改修事業

天塩川流域内の人や自然を洪水災害から守ることを目的に、自然や生態系に配慮し、堤防、川岸の保護などの改修が行われています。

### 築堤(堤防)工事

築堤(堤防)は河川の計画高水位以下の水位の流水を安全に流下させることを目的とし、左右岸に築造された盛土のことです。構造はほとんどの場合、土を盛って造られますが、特別な事情がある場合はコンクリートなどで造られることもあります。



築堤工事

### 樋門工事

樋門は、排水路や支川が堤防を横断して川へ流れこむ場合に堤防の中をトンネルのようにして通り抜けるものをいいます。川の水位が洪水などで高くなった時に、その水が堤内地側に逆流しないようにゲートが設置されています。樋門と樋管の明確な区別はなく、機能は同じです。



樋門

### 河岸保護工事(護岸工事)

河岸保護工は、川を流れる水の作用(侵食作用など)から河岸や堤防を守るために、それらの表面をコンクリートや石などで保護するものです。



河岸保護

### ●樋門のはたらき

flood control Column



#### 平常時の樋門

市街部等に降った雨は、住民や家屋等へ被害が生じないように、各河川から堤防に設置された樋門を通って大きな川に流れ込みます。



#### 増水時の樋門

長期的な雨や集中豪雨等のため、樋門を通り流入する河川よりも大きな川の水位が上昇した場合、大きな川の水が樋門を通り市街部等へ逆流するおそれがあります。このような時は樋門のゲートを閉じて大きな川からの逆流を防ぎます。

### ●内水・外水とは

key word

河川には、水害から人を守るための堤防という人工構造物があります。その堤防で守られているところ、つまり、家屋などが立っている側を「堤内」、川側を「堤外」といいます。そして、「堤内」の水を『内水』、河川側の「堤外」の水を『外水』といいます。そして、本川から洪水があふれることを「外水氾濫」といいます。本川から洪水があふれたのではなく、街や農地に雨が降り、堤外へ流れ出す事ができずにつまづくことを「内水氾濫」といいます。

また、河川の氾濫の際、堤内の土地が浸水した場合、内水ポンプなどで、その水を取り除くことを「内水排除」といいます。



内水氾濫(音威子府村市街)

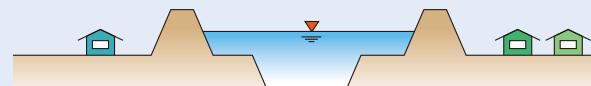
堤内



川西第2樋門

堤外

堤内



# 河川改修事業

River Work Office Teshio River Project

管内の河川整備事業を通じて、安全でゆとりのある快適な地域社会の形成、食糧基地としての役割の強化を目指しています

## 内水対策

### 排水機場(豊栄排水機場)

名寄市街地は、天塩川と名寄川にはさまれた内水域であり、支流豊栄川に樋門を設け、排水処理をしてきました。しかし豊栄川の流域面積が15.97km<sup>2</sup>と小さく、洪水時には豊栄川の水位上昇と名寄市街地の内水流出が同時に発生するため、樋門での排水処理が充分に行われず、市街地の低地部に内水氾濫を起こしていました。なかでも昭和48年(1973年)8月17日～20日にかけて発生した台風くずれの低気圧により、名寄市では240.6m/mの記録的豪雨となり、市街地のほぼ全域にわたり内水氾濫をおこす被害を受けました。この対策として豊栄排水機場の設置が計画され、昭和49年(1974年)に着工し昭和52年(1977年)に完成しました。

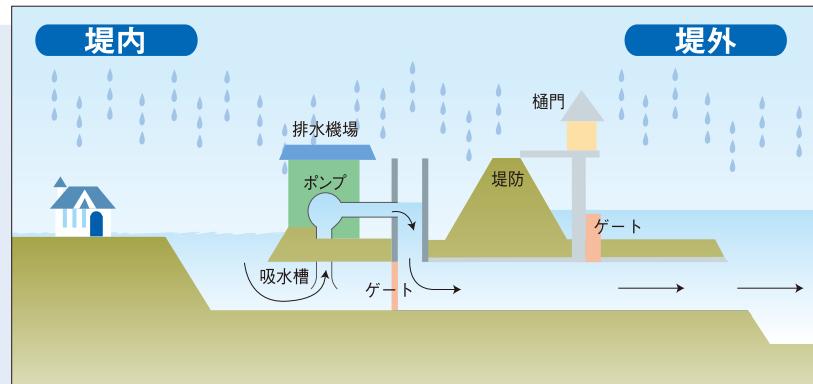
設置場所	名寄市西12条北3丁目	排水機の型式	横軸斜流ポンプ口径1,350mm 2台
集水面積	111.8ha		210PSディーゼルエンジン 2台
計画排水量	10m <sup>3</sup> /s	設置年	昭和52年(1977年)



豊栄排水機場

#### ●排水機場とは Key word

洪水時に樋門などを閉じてしまうと堤内地側に降った雨水が川へ出て行かないで、この水を川へみ出す施設が必要となります。これが排水機場と呼ばれるもので、施設の中ではポンプが稼動して、堤内地側の水を川へ排出しています。



### 救急内水排水場

天塩川や名寄川に接する内渉地区(名寄市天塩川)・旭東地区(名寄市名寄川)・美深6線地区・美深9線地区(天塩川)・音威子府地区(天塩川)の住宅地や田畠などは天塩川や名寄川の背水等の影響を受けやすく、堤内が浸水しやすいため状況に応じてポンプを使って内水を排除し、被害の軽減を図っています。



旭東救急内水排水場(名寄市)

#### 救急内水概要表

地区名	対象河川名	流域面積(km <sup>2</sup> )	ポンプ設置可能台数(台)	設置年
内渉	内渉川 (普通河川→準用河川)	10.77	5	平成6年 (1994年)
旭東	旭東川 (普通河川→準用河川)	1.62	3	平成7年 (1995年)
美深6線	美深6線川 (1級河川)	1.50	3	平成7年 (1995年)
美深9線	美深9線川 (普通河川→準用河川)	1.48	2	平成9年 (1997年)
音威子府	島見川 (普通河川→準用河川)	5.08	3	平成12年 (2000年)
合計		20.45	16	

# 河川維持・管理

River Work Office Teshio River Project

河川と人々の暮らしの安心・安全を守る事業です

堤防や河川敷については、現状の河川環境と河川空間の利用、周囲の土地利用等を踏まえながら、洪水による被害が防止され、河川が適正に利用され、流水の正常な機能と河川環境が維持されるよう総合的な視点で維持・管理を行います。また、定期的な河川巡視を行い、堤防の沈下や亀裂などの異常、河川管理施設の破損、土砂の堆積、ゴミや不法投棄などを早期に発見し、河川管理上支障となる場合は、速やかに必要な対策を実施します。

## 堤防の除草

堤防の除草は、堤防の機能を維持するとともに、亀裂・法崩れなどの異常を早期に発見するため行っています。

除草の時期、頻度については堤防の植生の状況や周囲の環境を考慮し行います。



除草工事

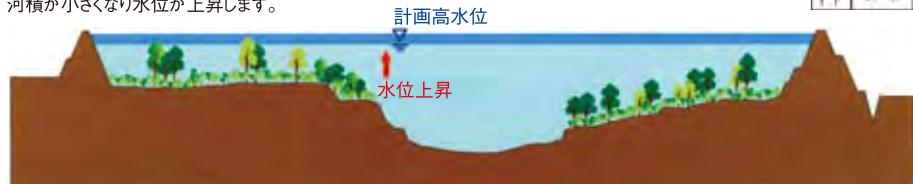
## 河道内樹木の管理

河道内の樹木は、動植物の生息・生育環境や河川景観を形成するなど、多くの機能がありますが、洪水時には水位の上昇や流木の発生等の原因となってしまいます。

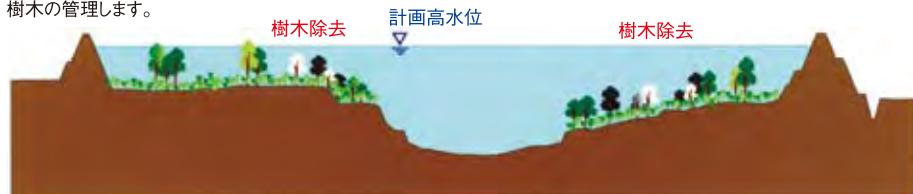
このため、河道内樹木の繁茂状況を隨時把握するとともに、洪水の安全な流下に支障とならないよう、生態系の変化、良好な景観形成、緑の連続性、鳥類等の生息環境の保全等に配慮した管理をします。

### ●現況の河道内樹木のイメージ図

洪水流下の支障となる樹木が繁殖すると、河積が小さくなり水位が上昇します。



計画高水位以下に水位を保つよう適切に樹木の管理します。



## 構造物等の維持・管理

床止、水門、樋門、頭首工、排水機場などの施設が所要の機能を發揮できるように定期的に巡視し、適正な点検・整備・補修などを行います。



東士別頭首工

# 水防

River Work Office Teshio River Project

災害時に被害を最小限に食い止めるための取り組みです

## 士別河川防災ステーション

士別河川防災ステーションは、日頃から災害に備えて水防活動に必要な資材などの保管・管理、地域住民の避難場所として利用されます。

場所◎士別市 天塩川「九十九橋」上流左岸

電話◎0165-23-4400



士別河川防災ステーション

## 中川地区水防拠点

中川地区水防拠点は、備蓄土砂ヤード、水防倉庫、資材ヤード、緊急ヘリポートなどを備え、災害時には水防活動、災害復旧の拠点として、また、災害時以外は水防団の活動を支援などの活用の場として作られた施設です。

場所◎中川町 天塩川「中川橋」下流右岸



中川地区水防拠点

### ●災害対策用機械を保有し緊急時に即応できる体制を整えています。

flood control Column

名寄河川事務所では、地震・水害等による様々な災害から皆さんの生活と財産を守るために災害対策用機械が配置され、いつでも出動できるようにしています。

#### 【排水ポンプ車】

洪水災害時の内水排除を行う機械です。

本機は、水中ポンプ(7.5m<sup>3</sup>/min)4台を搭載し、電源車との組み合わせにより、毎秒0.5tの排水能力を有しています。一般的なプールであれば12分程度で排水することができます。



#### 【照明車】

本機は、四輪駆動のベース車両に、発動発電機及び照明装置を搭載し、高さ10.5mからの照明により、夜間の復旧作業を支援し、さらに各種の非常電源供給用として使用するものです。また、本機は高所から現場を監視・記録することができるよう、テレビカメラ等の撮影機器を搭載しています。



# 河川情報網整備事業

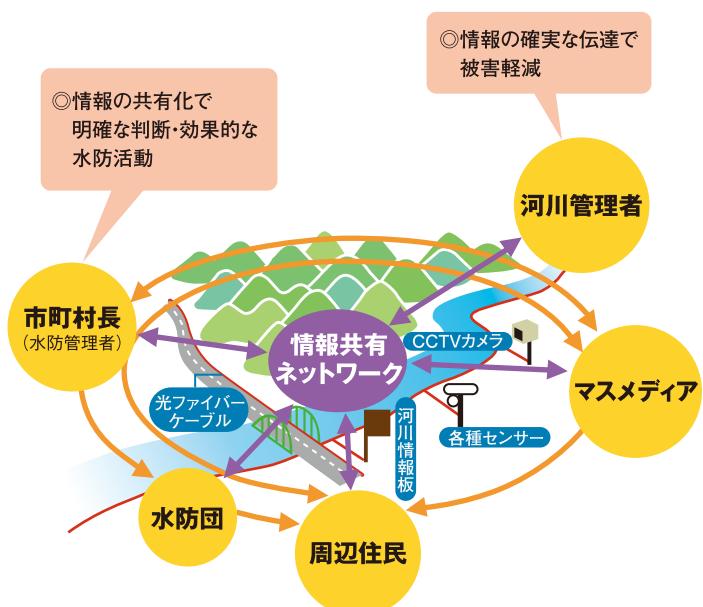
River Work Office Teshio River Project

流域の安全な暮らしを守るために河川を監視しています

天塩川は長大河川であるため、広範囲にわたる水位・雨量・画像などの河川情報をリアルタイムに収集・監視する必要があります。災害時にはこれらの情報を関係機関に迅速、的確に伝達し、水防活動や避難誘導等に、また平常時はゴミの不法投棄の監視や河川巡視の省力化対策などを目的としてCCTVカメラの設置や画像配信のための光ファイバーネットワーク整備を進めています。



CCTV カメラ



## ●道北レーダー雨雪量計

道北レーダー雨雪量計は平成5年度に道北の函岳(美深町)に設置されています。

レーダー雨雪量計は広範囲のより高い精度でかつ面的な雨量、降雪量状況をレーダーで把握するものです。得られた情報は豪雨、豪雪を予測し洪水調節や、水防警報、道路の交通規制、除雪等に迅速に備える事ができます。

システムレーダー網は豪雨や豪雪を見逃しません。また、観測されたデータは画面上に連続再生することができるため、雨や雪がどのくらいのスピードでどこを移動するのかを、予測することができます。



# 河川環境の整備・保全

River Work Office Teshio River Project

水際の多様化や魚類等の移動や連続性・生息環境の保全が行われています

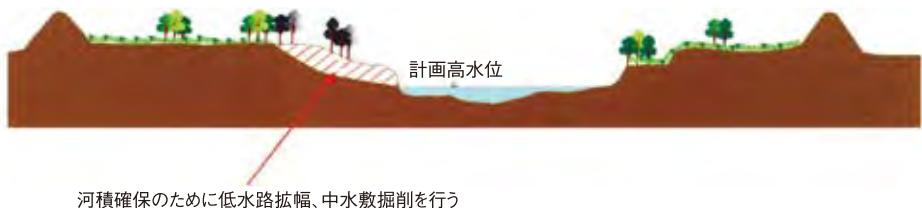
## 水際の多様化

天塩川の水際から高水敷にかけては、河畔林が分布しています。これらは、多様な生き物を育み又洪水の流勢を緩和し、良好な景観の形成や自然との触れ合い場を生み出しています。

こうした水際の多様性を考慮し、河川の整備・保全が行われます。

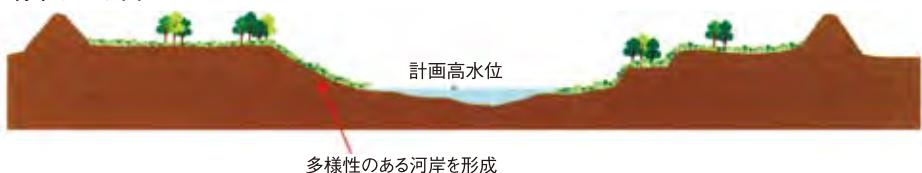
### ●水際の多様化のイメージ図

掘削イメージ図



凡例
保全
抜採

将来イメージ図



多様性のある河岸を形成

## 魚類等の移動の連続性及び生息環境の保全

天塩川やその支流では、8科21種の魚類が確認されています。(平成3年～平成18年調べ)これらの生息環境を維持するために、流況や河床を適切に維持することに加え、魚類等の移動の連続性を確保するため頭首工や取水堰への魚道の整備や既設魚道の維持管理を関係機関、施設管理者と調整・連携しながら行っています。



剣和頭首工 魚道

## 天塩川、名寄川の河川横断工作物

天塩川本流と支流の名寄川には、合計12箇所の河川横断工作物があります。

岩尾内ダムを除くこれらの横断工作物は天塩川流域の基幹産業である「農業」を支えるかんがい用水や上水などを供給しています。

### ●堰とは(頭首工・取水堰)

Key word

農業用水・工業用水・水道用水などの水を川から取るために、河川を横断して水位を制御する施設です。頭首工や取水堰とも呼ばれます。

堰は水門と混同される場合がありますが、ゲートを閉めたときに堰は堤防の役割を果たしません。

### <天塩川> 岩尾内ダム

東士別頭首工・士別川頭首工・剣和頭首工・天塩川第1頭首工・下士別頭首工・天塩川第2頭首工・風連20線堰堤

### <名寄川> 川向取水堰・名寄川頭首工・上名寄頭首工・真勲別頭首工



天塩川第一頭首工

# 都市水環境整備事業

River Work Office Teshio River Project

自然環境と共に歩み、皆に愛される川づくりをしています

魚類等の生息環境保全のための基礎調査を行っています。

天塩川の上流部、風連20線堰堤から岩尾内ダム間の魚類の生息状況等を調査しています。



魚類の生息調査の様子



底生生物調査の様子



風連20線堰堤上流部

## ●河川敷内の利用

flood control Column

市民が安全に利用できる公共の空間や憩いとやすらぎの場を提供しています。



つくもサッカー場(土別市)



パークゴルフ場(名寄市風連)



グラウンドゴルフ場(名寄市)



美深アイランドカヌーポート(美深町)



カヌーポート(音威子府村)



パークゴルフ場(中川町)

# 天塩川の水利用

River Work Office Teshio River Project

天塩川の水はさまざまに利用され、私たちの暮らしに役立っています

天塩川の流量は融雪期(4月～5月)には年間を通じ最も多くなり、かんがい期の夏と降雪期の冬に少なくなります。

天塩川の水は、かんがい用水をはじめ鉱工業用水、水道用水や水力発電にも積極的に利用されています。



## 天塩川の水利権

目 的	件数	最大取水量 (m³/s)
かんがい用水	275	88.80
発電用水	3	50.13
水道用水	8	0.33
鉱工業用水	5	1.16
その他の	16	1.90
計	307	142.32

(平成21年12月 一級水系水利権調書／北海道開発局)



天塩川 通常時

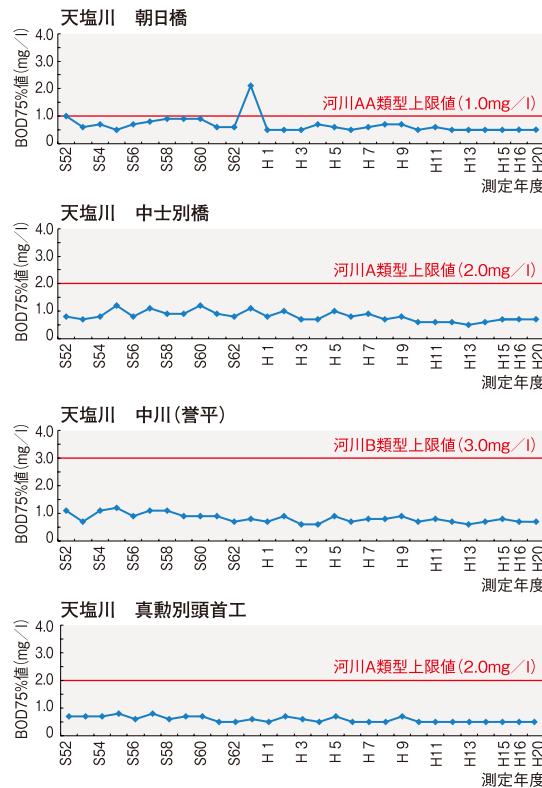


天塩川 満水状況

## 天塩川の水質

天塩川の水質汚濁による環境基準値は図-1のとおり指定されています。河川基準のBODについてみると、表-1のとおり各地点とも環境基準値をみたし、概ね良好な水質を保っています。

表-1 水質(BOD75%値)の経年変化



### 用語解説 —— Key word

◎BOD(生物化学的酸素要求量)  
水中の有機物をバクテリアが分解するのに消費される酸素の量。BODの数値が高いと水が汚れていることを表し、高くなりすぎると水中の酸素が欠乏し悪臭の発生などが起こります。

### ◎環境基準類型指定

河川の水質基準のこと。場所によって違う基準が設定されています。

図-1  
環境基準地点及び  
類型指定位置図



観測値より求めたBOD75%値が報告下限値(0.5mg/l)未満の場合は0.5mg/lとした。

# 岩尾内ダムの姿

River Work Office Teshio River Project

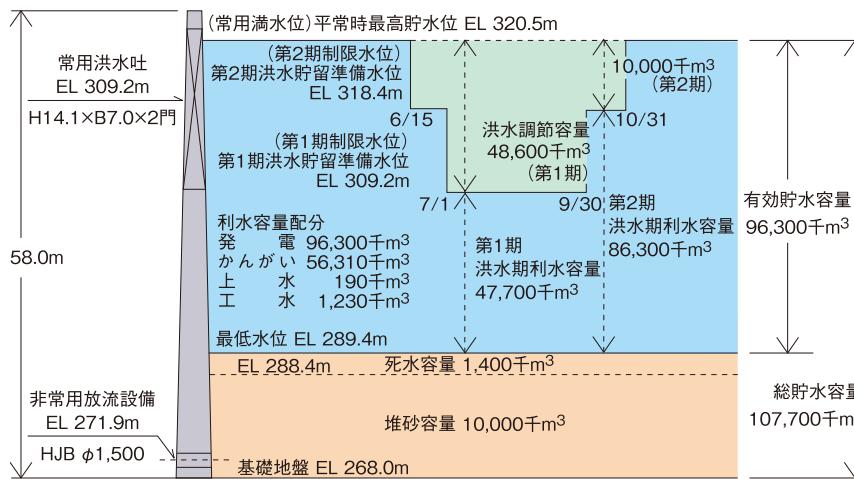
流域の暮らしと産業を支える多目的ダムを管理しています

## 岩尾内ダム

岩尾内ダムは天塩川本流の上流部に位置し、昭和46年に完成した多目的ダムであり、洪水調節、かんがい用水の供給、水道用水の供給、工業用水の供給、発電を目的としています。総貯水容量は1億770万m<sup>3</sup>です。



## 岩尾内ダムの貯水池容量配分



## 岩尾内ダムの諸元

形 式	重力式コンクリートダム
堤 高	58.0m
堤 頂 長	448.0m
堤 体 構	394千m³
流 域 面 積	331.4km²
湛 水 面 積	5.1km²
設 計 洪 水 位	EL 322.1m
平常時最高貯水位	EL 320.5m
最 低 水 位	EL 289.4m
総 貯 水 容 量	107,700千m³
有 効 貯 水 容 量	96,300千m³

Part of Iwaonai Dam

## 岩尾内ダムの役割

### 洪水を調節します

大雨などでたくさんの水が下流に流れると、川があふれて洪水が起こってしまいます。岩尾内ダムでは洪水が起きたら、ダムに水を貯めて川の流れる量を適切に調整し、洪水を未然に防いでいます。

### 川の水を使って発電します

都市が発展し、暮らしや便利になると電力需要は次第に増加しています。岩尾内ダムでは毎日流れる大量の水を有効に利用し暮らしに必要な電力を供給します。

### 水道・工業用水を蓄えます

岩尾内ダムでは飲料水や風呂の水など、生活に欠くことのできない水の他、工業用水なども不足しないように蓄えています。

### かんがい用水も蓄えます

日照りや水害など、天候まかせの農業では安定して農作物を生産することはできません。流域では、稻作やさまざまな野菜づくりが行われており、岩尾内ダムではかんがいに必要な用水を蓄えています。

# 天塩川上流域の生き物

天塩川のまわりには豊かな自然が広がり、多様な生物を育んでいます。

<資料:平成3(1991年)～平成18年(2006年)河川水辺の国勢調査>

**魚類** 天塩川では概ね8科21種の魚類が確認されています。数多く見られるのは、流水を自由に遊泳するウグイの仲間や川のよどみや池などにすむギンブナ、河床の隙間にすむフクドジョウなどの魚です。



ウグイ



国内外来種 ギンブナ



フクドジョウ

**植物** 天塩川上流では、概ね81科397種類の植物が確認されています。数多く見られるのは、ドロヤナギ、オニグルミなどの樹木やオオイタドリ、エゾニュウといった大型の植物が見られます。そのほかでは特定外来種のオオハンゴンソウなどが確認されています。



ドロヤナギ



オオイタドリ



特定外来種 オオハンゴンソウ

**鳥類** 天塩川上流では、概ね38科117種の鳥類が確認されています。河川の水辺では、マガモ、コガモ、カワアイサなどのカモ類や魚などを食べるカワセミ、アオサギが見られます。



カワアイサ



カワセミ



アオサギ

**陸上昆虫** 天塩川上流では、概ね212科1,779種の陸上昆虫等が確認されています。数多く見られるのは、バッタの仲間のハネナガフキバッタやチョウの仲間のクジャクチョウなどです。準絶滅危惧種のヒメギフチョウも確認されています。



ハネナガフキバッタ



クジャクチョウ



ヒメギフチョウ

## ほ乳類・は虫類・両生類

天塩川上流では、概ね7科18種のほ乳類、1科1種のは虫類、3科3種の両生類が確認されています。



エゾシカ(ほ乳類)



シマヘビ(は虫類)



アマガエル(両生類)

# 地域と一体となった河川管理

天塩川では地域住民と協力して河川管理を行う様々な取り組みが行われています。名寄河川事務所では、そのような取り組みに活用できる河川情報を地域へと発信していきます。また、官民の連携・協働の取り組みを通して、河川管理にとどまらず防災、教育、社会福祉など様々な面で地域が共に助け合う地域コミュニティを築くことを目指しています。



## 河川美化のための体制

一部の河岸においてゴミの漂着が見られる状況にあり、河川美化のため、河川愛護月間(7月)等を通して河川美化活動を実施すると共に、ゴミの持ち帰りやマナー向上の取り組みを行っています。また、地域住民、市民団体、関係機関と連携して良好な河川空間の維持管理を進めています。



河川清掃活動(天塩川)

## 河川美化へのさまざまな取り組み

NPO法人天塩川リバーネット21や天塩川流域市町村などが開催する「天塩川クリーンアップ大作戦」への協力や不法投棄禁止についてお知らせする「ゴミマップ」などを通じて地域住民のみなさんと共に河川を美化していく取り組みを進めています。



# 天塩川と松浦武四郎

幕末の探検家、松浦武四郎が蝦夷地（現在の北海道）に渡り、天塩河口からアイヌの人たちと天塩川を辿り、この地を調査したのは、幕末の安政4年（1857年）6月のことでした。往復で24日間を費やす大調査の末に「天塩日誌」という調査記録を著しました。日誌には天塩川の地勢や流域の動植物、アイヌの人々の生活などが克明に記録され、当時を知る貴重な資料となっています。



松浦武四郎像(天塩町鏡沼公園)



北海道命名の地(音威子府村)



東西蝦夷山川地理取調図より  
(北海道立文書館所蔵)

## 24日間にわたる流域調査

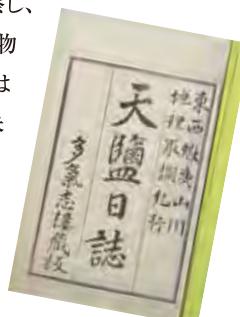
安政4年（1857年）6月7日に天塩川の調査のため出発した松浦武四郎一行は、河口から川筋をたどるかたちで幌延、雄信内、中川と進み音威子府、美深を過ぎて名寄へと至りました。名寄ではアイヌの小さな村をベースとしながら名寄川、サンル川の調査も行い、その後さらに本流を遡上。最後は源流付近まで到達し、天塩岳を望んだといいます。



天塩川の河口付近から見た利尻島 天塩日誌より(北海道立文書館所蔵)

## 松浦武四郎が綴った天塩日記

松浦武四郎が書き残した『天塩日誌』は、安政4年（1857年）、今から153年前の天塩川の姿を記しています。蝦夷地最北端の内陸部の様子を詳しく観察し、川の流れや、深さ、川岸の様子、自然や生き物をアイヌ語地名とともに記しています。そこにはアイヌの人々の生活の様子とともに、前人未踏の天塩川の自然を彷彿させます。



## ■ 松浦武四郎と北海道 ——

松浦武四郎が調査の帰路、篠島地区鬼刺辺川付近で野営した時、アイヌの集落（コタン）に立ち寄り、エモトという古老（エカシ）に「カイナー」と言う言葉の意味を尋ねたところ「カイ」は「この国に生まれたもの」・「ナー」は敬語と言うことを知りました。明治2年（1869年）に松浦武四郎は、明治政府に蝦夷地の新しい名をつけるように命じられ、日本の「北」にある「カイ」それに旧領土を指す「道」をつけ「北加伊道=北海道」を発想したと言われています。

松浦武四郎は、「北海道名選定上申書」で、道名の候補として、北加伊道、日高見道、海北道、海島道、東北道、千島道の案をあげています。



## 松浦 武四郎◎略年譜

●文政元年	(1818年)	三重県一志郡川村に生まれる	
	18歳より10年間諸国を旅する		
●弘化2年	(1845年)	東蝦夷地調査(第1回)	28歳
●弘化3年	(1846年)	西蝦夷地調査(第2回)	29歳
●嘉永2年	(1849年)	千島等調査(第3回)	32歳
●安政2年	(1855年)	幕府より蝦夷地御用雇を命じられる	38歳
●安政3年	(1856年)	蝦夷地、樺太を調査(第4回)	39歳
●安政4年	(1857年)	石狩川、天塩川を調査(第5回)	40歳
●安政5年	(1858年)	東蝦夷地を調査(第6回)	41歳
		江戸に住み始める	
●安政6年	(1859年)	『東西蝦夷山川地理取調図』等を完成	42歳
●文久2年	(1862年)	『天塩日誌』を江戸で発刊	44歳
●明治2年	(1869年)	明治政府より蝦夷地開拓御用掛 後に開拓官を命じられる	
		道名・郡名等を建議する	52歳
●明治3年	(1870年)	官職を辞し江戸で出版や旅行の生活	53歳
●明治21年	(1888年)	東京神田の自宅で死去	71歳

# 管内流域図



朱鞠內道立自然公園

天塩岳道立自然公園